

一般社団法人 わ・Wa・わ そいる小郡

2025年度 中核機能強化事業 報告

国が定める 4 つの機能に基づき、実績を報告する。

1. 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

(1)「幅広い高度な専門性」

障害児支援の経験 35 年以上の担当者 2 名(保育士、作業療法士)により、本事業を担当した。

(2)身近な地域で支援を受けられる体制の整備

昨年同様に小郡市自立支援協議会の場を活用して市内事業所とのコンタクト、各事業所の特徴の把握をおこなってきた。多くの事業所と並列な関係でつながれるような小郡市の支援体制創りを目指している。

保育所・保育園、学校等との相互連絡・連携についてはまだ、属人的な繋がりレベルであり、障害児支援関係を理解促進を求めている状況である。

小郡市巡回相談専門員派遣事業を活用した保育所(園)・幼稚園における児童への関わりを共に検討し、必要に応じてアドバイスを行う

(3)アセスメントに基づく総合的な支援の提供と、こどもの状態に合わせた特定の領域に対する重点的な支援

こどもが活動する場面において

行動分析⇒動作分析⇒運動機能・感覚機能分析

⇒環境分析⇒環境構成要素分析⇒環境把握能力⇒環境適応能力分析

上記分析をもとに、発達理論と照合しながら、こどもの状態像を相談者が理解できるであろう言葉で提案し、継続的に支援している。

自立支援協議会児童ワーキングにて

事例検討を重ねてきている。内容的には充実してきたが、事例を通して検討協議する際に話題が多岐にわたることがある。逆にかなり細かい限局的なポイントに留まることもある。

今後、以下の 3 つの視点で整理し検討することが必要ではないかと考える。

- ① 事例の状況に基づくコアな支援内容(医学モデルに近いかわり等)
- ② こどもを中心とした家庭生活の仮説と支援検討(生活モデルに近いかわり等)
- ③ こどもが過ごす環境や地域の仕組み等の把握と適正化等の検討(ソーシャルモデル的関わり)

(4)家族支援、きょうだいへの支援の取組

契約児を中心に保護者相談は定期的に実施。非契約児については、HP もしくは電話での問い合わせ・相談があったケースのみ対面での相談に応じ、市内事業所や相談先を紹介している。実績は 3 件である。

また、保育所(園)・幼稚園の協力のもと、小郡市巡回相談専門員派遣事業において保護者相談の機会を得ている。実績を以下に示す。

巡回相談のうち保護者相談対応数																			計
	み す ず 保 育 園	味 坂 保 育 園	小 郡 保 育 園	大 原 保 育 園	三 国 保 育 所	さ く ら 乳 児 保 育 園	城 山 保 育 園	あ す み 園	三 国 が 丘 保 育 園	松 崎 保 育 園	三 井 幼 稚 園	ア ス タ ー 幼 稚 園	御 原 保 育 所	す ば る こ ど も 園	大 崎 保 育 所	小 郡 中 央 保 育 園	ど ん ぐ り 園	す ば る ナー サ リ ー	
4月																			
5月																1			
6月			1																
7月																			
8月							1												
9月																			
10月		1	1	1							1					1	1		
11月																			
12月		1					1			1				1					
1月																			
2月							1				1								
3月																			
計		2	2	1			3			1	2			1	2	1			15

きょうだい児への支援は特に行っていない。

2. 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

(1)スーパーバイズ・コンサルテーションの必要性 ならびに (2)地域の事業所との相互理解、信頼関係の構築、(3)地域の状況把握、地域の事業所のニーズ把握、(5)地域の事業所に対する研修や事例検討会の実施

周辺事業所に対して、個別のスーパービジョンの依頼やそれに対応できるほどの信頼関係は未だ構築できていない「顔なじみ」になることを目的にする段階。

別途、依頼いただいた研修や学習会の機会の活用。

2025年度

実績 公開の研修会(学習会)を6回シリーズ

小郡市からは、7法人(12関連事業所16名ほど)が参加。他福岡市内、熊本、長崎から参加

- ① こどもの姿・その観方ととらえ方 (光真坊 浩史:東京)
- ② こどもへの関わりと発達支援 (菊池 健弥:青森)
- ③ あそび・活動とこどもへの関わり (酒井 康年:東京)
- ④ こどもとの対話、親への語りと言説 (金丸 博一:広島)
- ⑤ 運動とあそび (岸 良至)
- ⑥ グループディスカッション (全講師)

(4)学齢期のこどもへの対応

市単位で、学齢児の発達支援に焦点化した研修等が組めていない。ただし、福岡県の専門研修、国の

指導者養成研修等では、学齢期の児童に対する支援については触れているため、児童発達支援管理責任者レベルでは、研修の機会は提供されているものとする。小郡市内において、担当課の障がい福祉係ならびにこども家庭支援センターが「学齢児への支援」について連携することが最優先課題と考えている。

3. 地域のインクルージョン推進の中核機能

(1)地域のインクルージョン推進の必要性 および (2)地域の保育所等関係機関とのネットワークの構築・連携、(3)地域の保育所等に対する研修等の実施、(4)自治体と連携した周知・啓発

担当者は、小郡市におけるこども一般施策でのインクルージョンを目指して取り組んできたつもりであった。それは20年以上となる。市内保育所・幼稚園の先生方の疑問や苦労等に触れ、こどもと関わる工夫やアイデア、視点の共有を行ってきた。

制度的にも小・中教育においては「特別支援学級」で教育を提供されることが当たり前となっているが、幼少期においては、制度的な枠組み、分け隔てのない友達との交流が必要と考え、対応してきた。

今後、小郡市における障害児支援、インクルージョンのビジョンを確認し、それが有意義かつ理解可能なものであれば対応する。

巡回相談支援専門員派遣事業を中心に

すべての巡回には、こども家庭支援課職員の同行あり、行政とのつながりも可能となっている。

こどもの関係機関の一定の理解は進んでおり、それぞれの施設で取り組める内容の具体的な提案やアレンジが可能となっている。2025年巡回実績を以下の示す。

巡回相談実施園と児童数																																				
	みすず 保育園	味坂 保育園	小郡 保育園	大原 保育園	三国 保育所	さくら 乳児 保育園	城山 保育園	あすみ 園	三国が丘 保育園	松崎 保育園	三井 幼稚園	アスタ ー 幼稚園	御原 保育所	すばる こども 園	大崎 保育所	小郡中央 保育園	どんぐり 園	すばる ナーサリ ー	小郡こひつじ 園	月間 対象児 数	月間 巡回実 施回 数															
4月	1	1	1								1									4	4															
5月	2		1	1			2			1	1			1	1					10	9															
6月	1	1	1	1							2	1		1		1				9	8															
7月		1		2	2	1	1				1	2		1					3	14	9															
8月	2	1	1	1			1		3					1	1	1		1	3	16	11															
9月		1		1			1	1	1	1			2							8	7															
10月	3	1	1	1							1	2	2		1			1	2	15	10															
11月		1	1	1	2		1			1	2		3			1				13	9															
12月	3	1	2	3		2	1			1		2		1						16	9															
1月	2	1	1	3						1	2			1	1				1	13	9															
2月	1				2	1	1	1		1	1		1							9	8															
3月	2		2	1	3		1		3										1	13	7															
対象児数計	17	9	11	15	9	4	9	2	7	6	11	7	8	6	4	3			10	140																
巡回実施回数	9	10	9	10	4	3	8	2	3	6	8	4	4	6	4	3			5		100															

4. 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

(1) 発達支援の入口としての相談機能の必要性

ホームページもしくは保護者からの紹介で、問い合わせメール等をいただき保護者相談に応じた対応が3件。県外から小郡市内への転居に際し、県外事業所からの紹介、児童発達支援提供先の相談等。

相談は午前中の時間として通所園内容の見学も可能とし、「障害」や「障害児通所」に対するイメージが必要。「障害児」という言葉への違和感と不安、拒否感、喪失感などの軽減が必要。また、年度途中でのそいる小郡の利用は受け入れできない場合が多い。したがって、ご承諾いただければ、他事業所への紹介や市のこども家庭センターへつなぐことを行っている。

(2) こども家庭センター等の関係機関とのネットワークの構築・相互の情報連携や支援の連携・協働

実績 小郡市乳幼児健診：3歳 1 か月健診への介入 年間 12 回。

2025 年度も同様に健診に関わり、できるだけ早期に保護者に関わり、こどもへのサポートが開始されることが望ましい。

(3) 基幹相談支援センターや障害児相談支援事業所等との連携・協働（基幹相談支援センター）

主に自立支援協議会の活動を通じた相談支援との連携や共同での企画など。

(4) 保護者同士のつながりづくり・仲間づくりに向けた取組等について

当方で単独には取り組んでいない。SNS 等を活用したソーシャルコミュニケーションが発展している現在において、プラットフォームの紹介や個別の相談窓口などにつなぐことは有効な手段となる。

以上

2026年 4 月 1 日

一般社団法人 わ・Wa・わ そいる小郡

管理者 岸 良至